PICKIN' SINGIN' GINZA Rocky Top かわら版 第62号

'01,1,6 発刊

Yeah!マネージャー No.21 ～20世紀の思い出～

作.チーフ井上

拝啓 January

21世紀の幕開けです。世界中が新しい空気にめざめながらも自分1人の足元を見つめる時代のような気がします。ロッキートップもライブハウスとは何か?という基本に戻ってアットホームな店作りを目指して頑張ります。今世紀中もよろしくお願いします!

今月のマスター田口の動き! 2001年1月

@東京に帰れない!?

正月休み、母の住む山形に行った田口マスターだが1日で70cm以上積もるという観測史上最大の大雪にはばまれ、山形新幹線は全線ストップ!1/5(金)のロッキー21世紀初営業日に東京に帰って来れないという運の悪さをしょっぱなから見せつけることになった。しかし、ここぞとばかりに食いまくり、3日で4kgほど太ったとの事。

なんとか当日の夕方、新幹線が動き出し夜10時30分頃ロッキーに到着したが、そのままサクランボ園栽培のおっさんにでもなってしまうのか?と心配してしまった。新世紀の幕開けがこうとは…今後の運命はいかに?

太田裕美さん御来店!

去る12/27、あの「木綿のハンカチーフ」の太田裕美さんが御来店しました。今、西海さんがバックをつとめてることもあり「テキーラサーキット」の時に呼んでくれたのだ。「テキーラのファンです」と言うだけあって70年代のロックが大好きな様子でした。そして!あの名曲「木綿のハンカチーフ」をテキーラ3人をバックに歌ってくれたのです!「恋人よー僕は旅立つー」で客席のムードは一変「ウォー」っていう歓声と共にそれぞれの青春がフラッシュバックしていた。本当のヒット曲っていうのは、いつのまに人生の一部としてインプットされてるんだなー。しかしミキサー卓では1人ヘッドホンを聴き変態的行動に走るマスター田口の姿もあった。

裕美さんはとてもナチュラルで気取らない素敵な人でした。ありがとうございました。また遊びに来て下さいね!

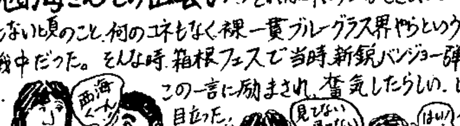
チーフ井上の北朝鮮紀行④

平壌、革命博物館に展示されている日本軍が犯した罪の数々、それは鼻を耳をそがれた朝鮮人の写真、大量虐殺の現場写真など。ただ日本に対する怨みをストレートに表現したものでした。ガイドの女性(50〜60才くらい)はさかんに「憎き日本帝国主義は…」と日本人を前に口にしました。日本の教科書に「日韓併合」の一行で終わってる出来事の真実は、とても恐ろしいものだった。特に第2次世界大戦あたりの朝鮮人への扱いは、人間として差別しつつ、日本人に同化させようとする矛盾に満ちた、そして陰惨を極めたものだった。これじゃ日本人が憎まれてもしょうがない!と肌で感じました。博物館に見物に来てる朝鮮人の団体が僕等を見る暗く険しい目つきに胸が痛みました。そして今は「憎きアメリカ帝国主義は…」とガイドの人は言います。僕が「過去あった事も大切だが現在のように国と国があらゆる意味で協力し合い経済発展していく時代、北朝鮮も、もっと国交を広げ経済的に恵まれようとは考えないのですか?」ときくと、「その通りです。できればそうしたい。しかし憎きアメリカ帝国主義がそれを阻むのです。アメリカの傘下にある国は経済封鎖という名目で北朝鮮との貿易を制限します」と言っていた。若い男のガイドに「日本は経済におぼれ、心を失った。いやしという言葉がはやり、地球規模の安らぎを考え始めている」と言うと「気持は分かるけど、北朝鮮にはそんな余裕はありません」と言われる。そう圧倒的に物資が足りないのだ。食物が少ないのだ。首都平壌の人達はみな一様にほほがこけていた。金正日がこの国で一番デブなのでは?と思った。しかし、そのおやじの金日成の偉大さは理解できるものだった。つづく

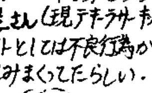
緊急企画! チーフ井上がつづる (21世紀に残したい) ロッキー世紀末事件簿

—21世紀を迎えるにあたり、20世紀ロッキートップで何があったのか?書ける範囲内で書き残しておきたい。苦しくも、微笑ましくもあるロッキー(特に小柳さん)が歩んで来た道が、ほんの少しでも分かっていただける事を願って…

@西海さんとの出会い→それは耳にタコができるほど聞かされてきた話だが、まだ小柳さんがロッキーをはじめて間もない頃のこと。何のコネもなく裸一貫ブルーグラス界やらという偏屈な世界とつき合いつつ、なかなかバンドも集まらず苦戦中だった。そんな時、箱根フェスで当時新鋭バンジョー弾きとして名を馳せていた西海孝さん(現テキーラサーキット)が、

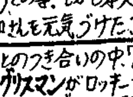


この一言に励まされ、奮気したらしい。しかしその西海さんはロッキーのバイトとしては不良行為が目立った。小柳さんの目を盗んではビールを飲みまくってたらしい。おまけに箱根フェスの出会いをきいても

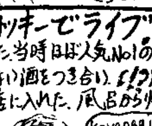


との事。しかし本人がどうであれ、当時の小柳さんを元気づけたことは確かだ。

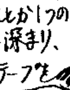
@グリスマンがロッキーでライブ!→そんなブルーグラスとのつき合いの中、「ドーグ」というジャズとブルーグラスを融合させた音楽で一世を風靡した、当時ほぼ人気No.1のマンドリン弾き、デビット・グリスマンがロッキーでライブすることになった。小柳さんは命がけの接待をした。飲めない酒をつき合い、(!?)風呂まで連れていった。当時のグリスマンの髪型、汚ないジーパンではほとんどの店に断られたが、なんとか1つの店に入れた。風呂から帰ってくるなり開口一番



と叫んだそうだ。それを機に小柳さんとの仲は深まり、



と言わしめている。そんな小柳さんはグリスマンにもらったクリスマステープを今も大切に持ち、クリスマスのプレゼントコーナーで飾ったりしてるが、その背表紙には



と書かれている「エ」はいらないと思います。なおグリスマンはおととし15,6年ぶりにコンサートの打上げでロッキーに来て、小柳さんと再会を果たしている。つづく

2001年タイムサービス!

ロッキートップでは「21世紀が21周年」を記念(?)して、タイムサービスを行います。PM8:00までのオーダー all ドリンク¥400 です。ダブルは¥700 ボトルキープは all ¥5,000

20周年の時の¥100引きのようにちゃちいーのはやめました。早目に来て下さいね。